



矢野 晴彦



佐藤 克之



斉藤 省司



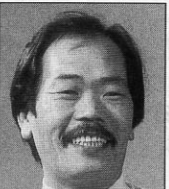
稲葉 政文



遠藤 節



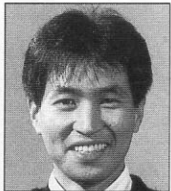
加藤 繁木



鴨川てんし



俵 千賀



増山 浩一



小沢 俊明



奥野 弘明



服部 博行



小嶋 章



三上 伸行



伊藤 幸恵



矢動丸純子



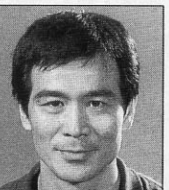
三浦 千美



大出 友子



畷名むつみ



岩切 慶暉

### 兵頭一兵かく語りき

昭和四十七年二月十九日でした。寒い日でした、でもいい天気だった。

ほくらの中学時代の恩師、伊集院惣之助先生が奥さんの淑子先生と上京されたのです。なんでも、大学を中退して行方不明になっている、ほくと同級だった進吾ちゃんを捜す為らしいのです……。

東京駅には、出版社に務めておられる長男の賢一郎さんが迎えにいかれたそうです。でも、賢一郎さん、進吾ちゃんの恋人だった昭子さんと同棲を怒らせてしまったのです。「同級会」といって、伊集院先生を呼ばせてしまったのです。「同級会」をやるうと国分隆一郎くんからほくの下宿へ電話が来たのです。余計なことをしますよ。そうでしょう。ほくは劇団をはじめ古本を売りながらその日その日をしていっているのですよ。国分は果会議員の息子で、金は持っているのです。登山家をきどって夜行でアルプスへ行ったりする男です。同級会の場所は新宿「どん底」知つとるですか、ロシヤ民謡が流れている、あの、「どん底」です。

出席者は、中学を卒業後、ホクサーになるべく上京し、青春に挫折はつきもの、と、挫折して新宿でコックをやっている綾香良輔。わざわざ登山家の格好をしている国分くん。高校を卒業すると、神田の間屋に就職した前田五郎くん。田舎で、小学校の教師になり、札幌冬季オリンピックを観る為に来っていた峰谷義之。義之には、なんと妻がいました。詩子さんです。なんと、こどももいるそうです。好きですなあ教師は。それから新宿のデパートに務めているという厚化粧の園田乙女。ふんつ園田が乙女なんかであるもんか。ほくも出席しました。出席しないとなにいわれるかわかったもんじゃやない。お客は、古い師の新宿の母や、フーテンの新宿の馬車、末広亭の落語家遊び家天才。ほくは、きどってゴリキーの「どん底」を読んでいたわけですよ。そこへ、光彦がやってきました。ほら、知つとるでしょう。中学を卒業するとおとうさんと筑豊へいった光彦です。人をあやめて東京へ逃げて来たらしいんです。やばいですよ。光彦は、よくいえば侠客になっていたのです。惣一郎先生は、「どん底」で黒田知成という人に会うことになるのです。二人はソ連エラブカ収容所に抑留されていたらしいのですが、「……天敵……」黒田知成という人は、たしかにそういいました。

賢一郎さんも、昭子さんもやってきました。「進吾は、どこで、なんばしよるつ」惣一郎先生が泣いたり暴れたりして、教育者も外面はいいけど、息子には弱いですなあ。この先生から、ほくは「自由、平等、博愛」を習ったのです。テレビが「浅間山荘」を中継していました。寒い日でした、でもいい天気だった。新宿にはめずらしく、満天の星空でした……。

## 予告

## 『闇市愚連隊』

平成元年 下北沢本多劇場 9・21～9・27

☆構想五年!! “闇市においては、国籍、階級、身分、出身、学歴は一切問われなかった。華族も ヤクザも、軍人も、被差別窮民も、開放国民も同格であり、路上に一枚のゴザを敷いて 貧しい品物を売るところから出発した。身分制の呪縛と差別の長い歴史をもつ日本において これは画期的な出来事だった……。”

映画、舞台が今まで描いた闇市とはまったく異質の、岡部耕大原色の世界……。

待望久し、岡部耕大なつかしの総天然色カラーシネマスコープ、オールキャスト作品!!

時、昭和23年～25年、九州、軍港佐世保……。

今回 劇団「空間演技」

本格的な名物予告編あり!

## 『闇市愚連隊』

日替りゲスト堂々大出演!!

草野大悟 小野武彦 根本和史

岡本真実

他多数……